

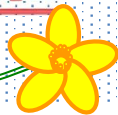


2017年
11月

結実時期の巻

アゼオトギリにゆーす2年目!

～咲かせようアゼオトギリ 広げよう笑顔の花～



アゼオトギリ保全勉強会開催

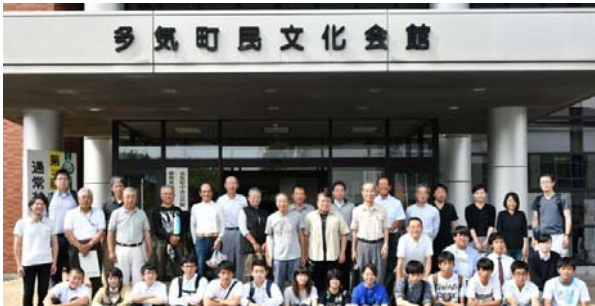
6月17日(土)に第6回アゼオトギリ保全勉強会を開催しました。

本年度で3年目の勉強会。今回は昨年度と同様に、自生地移植地の生育状況の報告、会の皆様の栽培状況を報告いただきました。

また、三重県農林水産部みどり共生推進課から、アゼオトギリが県条例指定植物となった件と、三重県が取り組む「みえ生物多様性推進プラン」の件についてお話しいただきました。

事務局からは、今後の保全に向けての体制と今後の保全ロードマップを提示させていただきました。

県の条例指定種となったこともあり、今後皆さんの継続的な取組・ご協力をいただきますようよろしくお願い致します。



各高校からの報告



各団体からの報告

名古屋で学会発表を行いました

9月下旬、保全に係る学会である応用系学会(日本応用生態工学学会、日本景観生態学会、日本緑化工学会)の三学会合同のELR2017が名古屋大学にて開催されました。この学会で、建設環境研究所の石井氏、三重河川事務所赤嶋課長、福井県立大吉岡先生、三重大平山先生の連名で「三重県河川で確認されたアゼオトギリの生態調査と地域協働による保全」というタイトルでポスター発表を行いました。

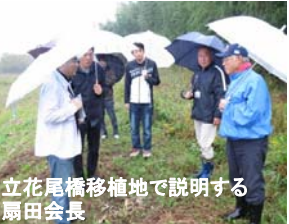
今回の学会は河川だけでなく、里山や二次的な自然、都市など様々な環境の発表がなされた。また、私たちがいる地域のような地域の様々な関係者と保全の取組を行っている事例もみられ、本研究は保全生態の研究者や行政の方にも関心を持って聞いて頂きました。



名古屋大学での発表の様子

福井県から「板倉みどりクラブ」の皆さんが視察にいられました

10月29日(日)に福井県坂井市板倉地区から6名の方が、多気町の生育場所を視察にいられました。台風22号が接近する雨の中、皆さんに移植いただいた移植地を見学いただきました。台風後の増水から自生地は堤防上からみるにとどめ、桜づつみ公園、西池上立花尾橋の各移植地を見学しました。台風前の雨の中、参加頂いた皆様、ご協力ありがとうございました。



立花尾橋移植地で説明する扇田会長



西池上移植地で説明するやまびこ会 山下 前代表

アゼオトギリの種は採取できましたか

今年も自生地では花が咲き、秋の調査では実を結んでいます。移植地では例年より早く実ができていくようにみえました。皆様が育てているアゼオトギリも種がこぼれている頃だと思います。

来年からの保全活動にも使える種は出来るだけ採取しておきましょう。種の保管方法は茶封筒に種子を入れさらにチャック付きビニール袋にいれて冷蔵(冷凍)し春まで保存しましょう。



自生地:8月17日撮影



桜づつみ公園:11月7日撮影

移植株のこぼれ種より発芽しました

昨年まで移植した株は旺盛に花・実をつかせていきましたが、こぼれた種からの発芽・定着が課題でした。本年なんと移植地の2箇所でこぼれた種から芽生え、生育を確認しました。今後種から増えていくことが期待されます。



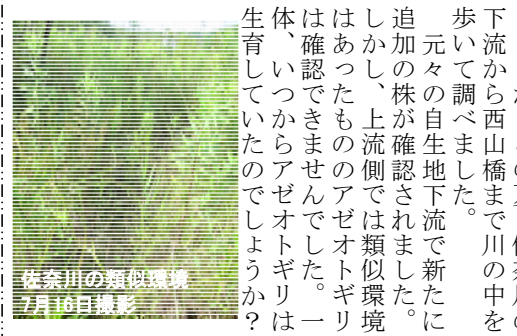
新橋:11月7日撮影

仁田:6月17日撮影

分布調査の結果

アゼオトギリは今の自生地以外に生育はみられないのでしょうか?この夏、佐奈川の下流から西山橋まで川の中を歩いて調べました。

元々の自生地下流で新たに追加の株が確認されました。しかし、上流側では類似環境はあったもののアゼオトギリは確認できませんでした。一体、いつからアゼオトギリは生育していたのでしょうか?



佐奈川の類似環境 7月10日撮影

情報をお寄せ下さい

今年も雨も多く、夏らしくない夏でした。アゼオトギリの花は例年よりも早めに咲いた感じでしたが、日照不足から、実が例年より大きくならなかったように見受けられました。2度に渡る台風の中、中止も想定されましたが福井の皆様が視察されたことが福井の組みに関心を示して頂き報告や今後の取り組みへの要望等をお寄せ下さい。

三重河川国道事務所 調査課
059-(229)2216

多気町 建設課
0598(38)1116

町民環境課
0598(38)1113